

平成17年度「出生に関する統計」の要旨

(人口動態統計特殊報告)

【参考】

1. 「人口動態統計特殊報告」は、毎年テーマを変えて人口動態統計をより深く掘り下げ、解析したものであり、各方面に貴重な資料を提供している。「出生に関する統計」については4年ぶり、5回目の刊行となる。
2. 「人口動態統計」とは、我が国の人口の動向を恒常的に調査するものであり、国勢調査とともに我が国の主要統計の一つとなっている。
この調査は明治32年から現在の方法で調査が行われるようになり、出生・死亡・死産・婚姻・離婚の5種類の事象について、戸籍法等による各種届書を基にして調査している。
また、調査の結果は、「人口動態統計」(年報)や「人口動態統計月報」として公表している。

○ 世代ごとに女子の20代、30代前半時点での未婚化が進む(概況 P.4)

妻の年齢階級別累積初婚率(女子人口百対)の平均の推移

年次	累積初婚率			対前年増減		
	20～24歳	25～29	30～34	20～24歳	25～29	30～34
平成12年	12.7	47.3	72.8	△ 0.0	△ 1.1	△ 0.9
13	12.8	46.3	70.5	0.1	△ 1.0	△ 2.3
14	12.7	45.0	70.5	△ 0.1	△ 1.2	△ 0.0
15	12.4	43.8	69.2	△ 0.3	△ 1.2	△ 1.3
16	11.9	42.6	68.1	△ 0.4	△ 1.2	△ 1.1
平成12→16年				△ 0.8	△ 4.7	△ 4.8

○ 30歳までに1人以上、2人以上の子を生んだ女子の割合は減少傾向(概況 P.14)

出生コホート別にみた30歳までに子を生んだ女子の割合

出生順位	昭和39年 生まれ (40歳)	[30歳]			
		46 (33歳)	47 (32歳)	48 (31歳)	49 (30歳)
第1子(少なくとも1人以上)	62.8	51.1	50.2	49.0	48.5
第2子(少なくとも2人以上)	39.2	27.8	26.9	25.8	25.5

注：()内の年齢は平成16年時点の年齢である。

- 40歳までに1人目を生んだ母のうち、40歳までに2人目を生んだ母の割合は減少同様に、2人目を生んだ母のうち、3人目を生んだ母の割合も減少一方、3人目を生んだ母のうち、4人目を生んだ母の割合は増加（概況 P.15）

出生コホート別にみた次子出生割合

【40歳まで】			(%)
出生順位	昭和29年 生まれ (50歳)		39 (40歳)
第1子 → 第2子	86.7	→	79.7
第2子 → 第3子	37.0		33.6
第3子 → 第4子	14.1		15.1

注：（）内の年齢は平成16年時点の年齢である。

- 「第2次ベビーブーム」期（昭和46～49年）に生まれた女子の約半数は30歳の時点で子を生まんでいない
40歳の時点で見ると、昭和39年生まれ（平成16年で40歳）の女子の約2割は子を生まんでいない（概況 P.16）

出生コホート別にみた子を生まんでいない女子の割合

【30歳】			(%)					
	昭和29年 生まれ (50歳)		39 (40歳)	46 (33歳)	47 (32歳)	48 (31歳)	49 (30歳)	
子を生まんでいない 女子の割合	18.3	→	37.2	→	48.9	49.8	51.0	51.5

【40歳】			(%)
	昭和29年 生まれ (50歳)		39 (40歳)
子を生まんでいない 女子の割合	10.0	→	22.3

注：（）内の年齢は平成16年時点の年齢である。

- 結婚期間が妊娠期間より短い出生は、増加傾向（概況 P.18～20）
（嫡出第1子出生に占める割合であって、婚姻に占める割合ではない）

母の年齢階級別にみた結婚期間が妊娠期間より短い出生数及び嫡出第1子出生に占める割合

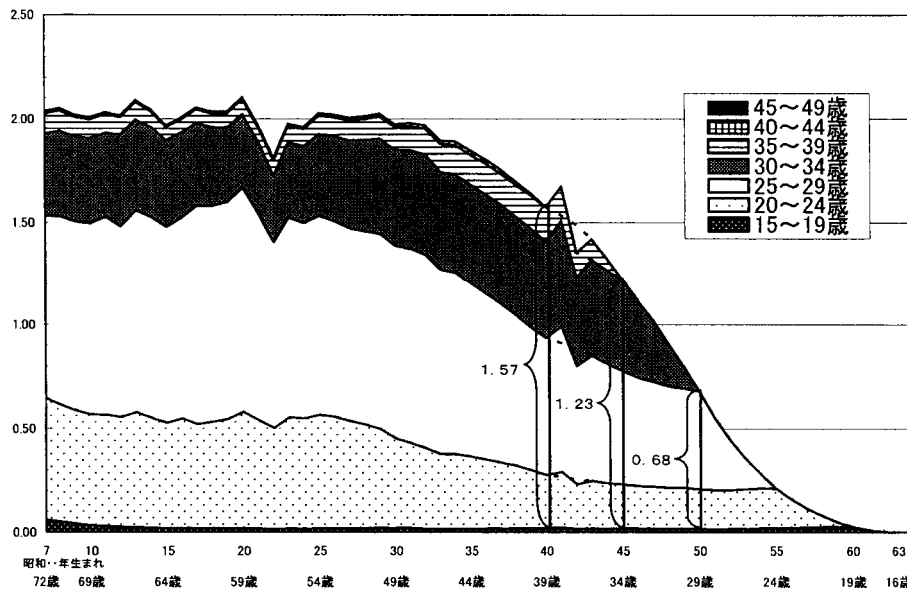
年次	結婚期間が妊娠期間より短い出生数（千人）						嫡出第1子出生に占める割合（%）					
	総数	15～19歳	20～24	25～29	30～34	35～	総数	15～19歳	20～24	25～29	30～34	35～
昭和55年	83	6	45	26	5	1	12.6	47.4	20.1	7.8	7.1	6.6
平成16年	139	11	57	47	19	5	26.7	82.9	63.3	22.9	11.7	10.9

注：1)一定の仮定に基づき試算した。

2)割合は、結婚期間不詳を除いた嫡出第1子出生数に対する数値である。

- 39歳（昭和40年生まれ）の累積出生率（コーホート合計特殊出生率）は、1.57（概況 P.11）

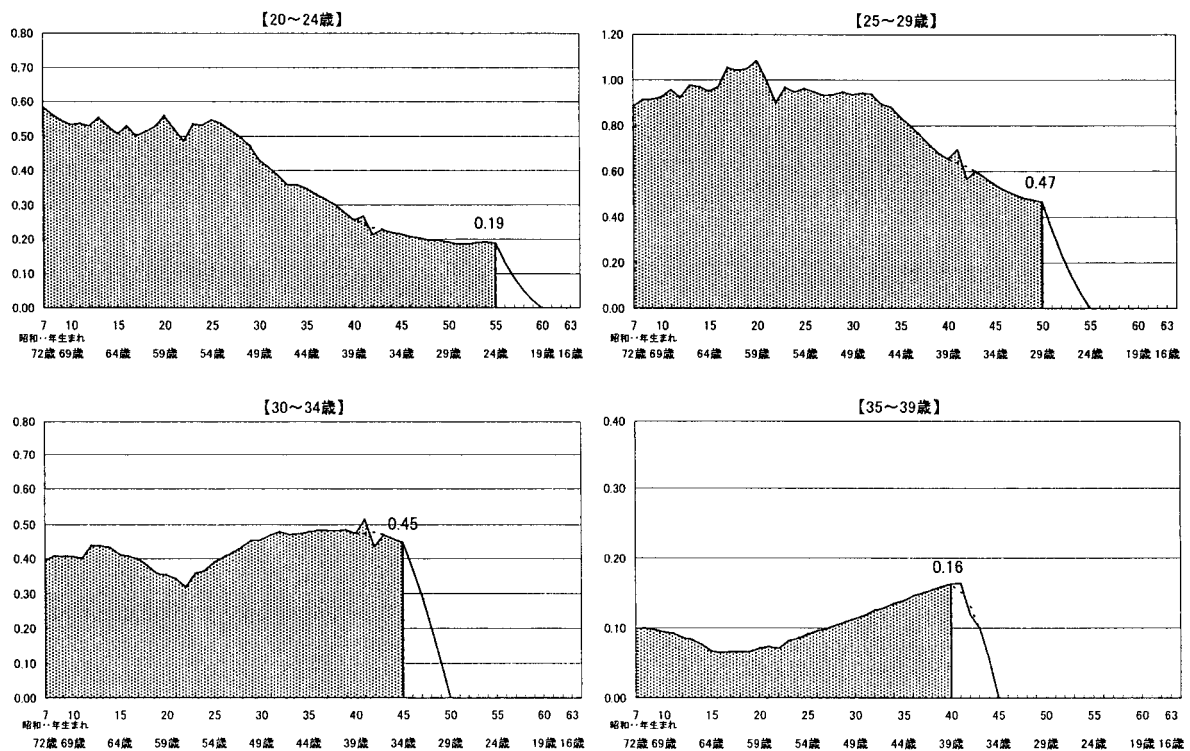
出生コーホート別にみた累積出生率（平成16年までの累積）



注：1)点線は「ひのえうま」による年齢別出生率の影響を補整したものである。
2)横軸の年齢は平成16年時点の年齢である。

- 累積出生率の内訳をみると、20代前半の出生率は下げ止まり、30代後半は上昇傾向（概況 P.12）

出生コーホート別にみた累積出生率の年齢階級別内訳



注：1)白ヌキは5年経過していない出生コーホートの平成16年までの実績である。
2)点線は「ひのえうま」による年齢別出生率の影響を補整したものである。
3)横軸の年齢は平成16年時点の年齢である。

○ 出生数は、「15～49歳女子人口」、「(期間)合計特殊出生率」、「年齢構成の違い」により変動(概況 P.24～25)

①出生数は(期間)合計特殊出生率を用いて3つの要素に分解できる。

$$\text{出生数} = 15\sim 49\text{歳女子人口} \times \frac{\text{(期間)合計特殊出生率}}{35} \times \text{(15\sim 49歳女子人口の)年齢構成の違い}$$

②対前年増減率(%)は、近似的に次の式が成り立つ。

$$\text{出生数} = 15\sim 49\text{歳女子人口} + \text{(期間)合計特殊出生率} + \text{年齢構成の違い}$$

- ・ 「15～49歳女子人口」は、平成9年以降毎年1%程度減少し、今後も減少することが見込まれる。
- ・ 「年齢構成の違い」は、平成3年から15年まで増加し出生数を増加させてきたが、平成16年に2年ぶりに増加から減少に転じ、今後も減少することが見込まれる。

(期間)合計特殊出生率を用いた出生数の構造分析

年次	実数				対前年増減率(%)			
	出生数 ①×②/35×③	15～49歳 女子人口 (千人) ①	合計特殊 出生率 ②	年齢構成 の違い ③	出生数	15～49歳 女子人口 (千人) ①	合計特殊 出生率 ②	年齢構成 の違い ③
昭和45年	1 934 239	29 400	2.13	1.079
46	2 000 973	29 589	2.16	1.097	3.5	0.6	1.1	1.7
47	2 038 682	29 700	2.14	1.122	1.9	0.4	△ 0.7	2.2
48	2 091 983	30 035	2.14	1.139	2.6	1.1	△ 0.1	1.6
49	2 029 989	30 128	2.05	1.151	△ 3.0	0.3	△ 4.3	1.1
50	1 901 440	30 251	1.91	1.152	△ 6.3	0.4	△ 6.8	0.1
51	1 832 617	30 271	1.85	1.144	△ 3.6	0.1	△ 3.0	△ 0.7
52	1 755 100	30 289	1.80	1.126	△ 4.2	0.1	△ 2.8	△ 1.6
53	1 708 643	30 319	1.79	1.101	△ 2.6	0.1	△ 0.5	△ 2.2
54	1 642 580	30 351	1.77	1.071	△ 3.9	0.1	△ 1.2	△ 2.8
55	1 576 889	30 438	1.75	1.038	△ 4.0	0.3	△ 1.3	△ 3.0
56	1 529 455	30 333	1.74	1.013	△ 3.0	△ 0.3	△ 0.3	△ 2.4
57	1 515 392	30 404	1.77	0.986	△ 0.9	0.2	1.6	△ 2.7
58	1 508 687	30 463	1.80	0.963	△ 0.4	0.2	1.7	△ 2.3
59	1 489 780	30 549	1.81	0.942	△ 1.3	0.3	0.6	△ 2.1
60	1 431 577	30 644	1.76	0.927	△ 3.9	0.3	△ 2.6	△ 1.6
61	1 382 946	30 726	1.72	0.914	△ 3.4	0.3	△ 2.3	△ 1.4
62	1 346 658	30 834	1.69	0.904	△ 2.6	0.4	△ 1.9	△ 1.1
63	1 314 006	30 983	1.66	0.896	△ 2.4	0.5	△ 2.0	△ 0.9
平成元	1 246 802	31 177	1.57	0.890	△ 5.1	0.6	△ 5.1	△ 0.6
2	1 221 585	31 154	1.54	0.890	△ 2.0	△ 0.1	△ 1.9	△ 0.1
3	1 223 245	31 094	1.53	0.897	0.1	△ 0.2	△ 0.5	0.9
4	1 208 989	30 974	1.50	0.910	△ 1.2	△ 0.4	△ 2.1	1.4
5	1 188 282	30 865	1.46	0.924	△ 1.7	△ 0.4	△ 2.9	1.6
6	1 238 328	30 681	1.50	0.942	4.2	△ 0.6	2.9	1.9
7	1 187 064	30 614	1.42	0.954	△ 4.1	△ 0.2	△ 5.2	1.3
8	1 206 555	30 651	1.43	0.967	1.6	0.1	0.2	1.3
9	1 191 665	30 249	1.39	0.993	△ 1.2	△ 1.3	△ 2.6	2.8
10	1 203 147	29 809	1.38	1.021	1.0	△ 1.5	△ 0.3	2.8
11	1 177 669	29 330	1.34	1.047	△ 2.1	△ 1.6	△ 3.0	2.6
12	1 190 547	28 821	1.36	1.064	1.1	△ 1.7	1.3	1.6
13	1 170 662	28 513	1.33	1.077	△ 1.7	△ 1.1	△ 1.9	1.3
14	1 153 855	28 240	1.32	1.085	△ 1.4	△ 1.0	△ 1.1	0.7
15	1 123 610	27 998	1.29	1.088	△ 2.6	△ 0.9	△ 2.1	0.4
16	1 110 721	27 773	1.29	1.086	△ 1.1	△ 0.8	△ 0.1	△ 0.2

- 注：1) 「合計特殊出生率」の転換年は昭和49年
 2) 「年齢構成の違い」の転換年は昭和51年、平成3年、平成16年
 3) 「15～49歳女子人口」の転換年は平成9年

(期間) 合計特殊出生率を用いた出生数の構造分析

○ 出生数は(期間)合計特殊出生率を用いて3つの要素に分解できる。

$$\text{出生数} = 15\sim 49\text{歳女子人口} \times \frac{\text{(期間) 合計特殊出生率}}{35} \times \text{(15}\sim 49\text{歳女子人口の) 年齢構成の違い}$$

昭和45年 (1970年)	193.4 万人	$=$	$2,940$ 万人	\times	$\frac{2.13}{35}$	\times	1.079
	↓+8.2%		↓+2.2%		↓+0.3%		↓+5.6%

48年 (1973年)	209.2	$=$	$3,004$	\times	$\frac{2.14}{35}$	\times	1.139
	↓△9.1%		↓+0.7%		↓△10.8%		↓+1.2%

50年 (1975年)	190.1	$=$	$3,025$	\times	$\frac{1.91}{35}$	\times	1.152
	↓△35.8%		↓+3.0%		↓△19.2%		↓△22.8%

平成2年 (1990年)	122.2	$=$	$3,115$	\times	$\frac{1.54}{35}$	\times	0.890
	↓△1.2%		↓△1.6%		↓△7.6%		↓+8.6%

8年 (1996年)	120.7	$=$	$3,065$	\times	$\frac{1.43}{35}$	\times	0.967
	↓△6.9%		↓△8.7%		↓△9.5%		↓+12.6%

15年 (2003年)	112.4	$=$	$2,800$	\times	$\frac{1.29}{35}$	\times	1.088
	↓△1.1%		↓△0.8%		↓△0.1%		↓△0.2%

16年 (2004年)	111.1	$=$	$2,777$	\times	$\frac{1.29}{35}$	\times	1.086